

バンコク国際フォーラム

1. 会議名称：

2nd JSPS International Forum: Roles of Universities in Community/Regional Development

2. 目的：

第二回となる 2009 年度のフォーラムでは、日本とタイの科学技術研究・教育機関の地域貢献についての取り組みについて、より具体的な事例・問題について議論を深めることにより、地域貢献に資する学術の国際協力の推進を図り、またそのために必要な政策的支援等について有効な知見、提言を得ることを目的とする。

3. 参加予定機関：

- 2008 年度の第一回フォーラム 14 大学に加え、他大学にも参加の案内を行う。
- 大学等と共同で地域貢献に取り組んでいる地方政府機関、企業、民間団体等。

4. 参加予定人数：

約 70 名（うち講師として日・タイそれぞれ 8 名、合計 16 名程度を予定）

5. 開催予定期間：

2009 年 11 月 16 日（月）～18 日（水）（視察 1 日を含む）

6. 開催予定場所：

チェンマイ市内の会議場

7. 内容：

(1) 2 日間のフォーラムでは以下のセッションを設ける。

| セッション | チェア |
|-------------------|--------------|
| ①産官学連携(地域イノベーション) | 近藤正幸横浜国立大学教授 |
| ②地域コミュニティ支援（医学等） | 徳田雅明香川大学教授 |
| ③地域産業支援（農業等） | 戸田恒一広島大学教授 |
| 総合討論 | - |

(2) 各セッションでは、それぞれの分野での地域貢献について、先見的な取り組みを行っている機関、あるいは地域貢献を対象にした研究を行っている研究者による講演と参加機関による取り組み事例についての講演を行う。また各セッションの最後に討論時間を設け、総合討論で話し合う課題の抽出とセッションのまとめを行う。

(3) 総合討論：各セッションの総括とその比較から、日本とタイの地域貢献における国際協力のあり方について、その可能性や問題点、また政策等の支援には何が必要かを議論する。また、地域貢献分野における国際協力のためのネットワークの形成の可能性について議論を行う。

(4) 3日目：視察

タイ（チェンマイ）における教育・研究機関による地域貢献の取り組みの事例を見学する。チェンマイでは地元産業界と大学間による協力事例があるほか、山岳部を中心に農業・観光による地域振興，医療分野の事業等多くの事例があり，これらの現場の視察を行う。

8. 期待される成果：

日本とタイの大学による地域貢献の取り組みについての知見や課題を共有することで，将来の地域貢献を目指した研究協力の機会をつくることができる。第一回フォーラムをきっかけとして広島大学とコンケン大学間で研究交流協定が結ばれるなど，すでにその成果も現れている。このような日本とタイの大学間の研究・教育交流の促進により，東南アジア地域における科学技術コミュニティ形成に寄与する。

また，協力の推進，さらに国際協力ためのネットワークの形成に必要な政策的支援についての提言を得られる。